秋の特別号！

【15分講習会】

◆電子ジャーナル・データベース講習会　12:30~

◆文献整理講習会　16:30~

詳細はこちら

10月17日(木)・21日(月)・23日(水)
25日(金)・29日(火)

◆夏季特別貸出返却期限日

◆掲載コラム
「こんにちは、図書館の中の人です」

特集「先輩インタビュー」

卒論・修論執筆についての
ロングインタビューです!!

裏面をご覧ください

京都大学 吉田南総合図書館（愛称：逍遥館（しょうようかん））
〒606-8501
京都市左京区吉田二本松町
Tel：075 (753) 6524, 6525
Fax：075 (753) 6896
Email：eturan61@mail.adm.kyoto-u.ac.jp
HP：http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/yoshidasouthlib/
Twitter : @yoshidasouthlib

HP　Twitter

Library Newsletter

【ガイダンス】2019年後期は2本立て！

15分
講習会

12:30~ 電子ジャーナル・データベース講習会（EJ・DB）

16:30~ 文献整理講習会

10月17日(木)・21日(月)・23日(水)
25日(金)・29日(火)

＜場所＞
京都大学 吉田南総合図書館1F　調査・相談カウンター前

＜申込方法＞
事前予約の方優先です（当日参加も可能）。
【メール】件名に「ご希望の講習会名」を入力いただき、本文に「氏名・所属・回生・学籍番号・希望日時」を明記のうえ、下記のアドレスへ送信してください。
eturan61@mail.adm.kyoto-u.ac.jp
【web】下記フォームからお申し込みください。

講習会申込
フォーム→

＜内容＞
【EJ・DB講習会】
論文やレポートを執筆する際に必要不可欠となる電子ジャーナル・データベースの利用方法や、実際に利用するとき気を付けたいポイントをご紹介します。
【文献整理講習会】
先行研究・関連文献の管理方法や、さまざまな管理ツールをご紹介します。
いずれも15分とコンパクトな講習会です。ぜひお気軽にご参加ください。
※12：30の回は「EJ・DB講習会」、16：30の回は「文献整理講習会」を開催します。時間帯にご注意ください。

Follow me！ @yoshidasouthlib

【お知らせ】夏季特別貸出の返却日をお忘れなく！

＜夏季特別貸出返却期限日＞

2019年10月10日（木）

貸出更新はできませんので
必ず期日までに返却ください

【コラム】こんにちは、図書館の中の人です。

こんにちは、4か月ぶりの図書館の中の人（ILL（Inter Library Loan）担当）です。6月に「猛暑も終わって過ごしやすくなっているだろう季節にお会いしま･･･」と書きましたが、今夏は猛暑日が昨年より少ない？分、残暑が厳しかったですね！というわけで、みなさん、いかがお過ごしでしょうか。

さて、吉田南総合図書館で夏の間に変わったことをいくつかご紹介。

＜その1＞

文献収集などの講習会をゆったりと受講してもらえるように、1階調査･カウンター前にあった低書架（参考図書）を移動させました（カーペットの色が違うところに書架があったんですよ。色のちぐはぐはご愛嬌）。デスク付の椅子を20台並べても快適なはず、です。

10月後半開催予定の講習会で実感してみてくださいね！（↗）

＜その2＞

2階にある洋書を、大閲覧室西側に新しく設置した書架にも再配架し、見やすく、取り出しやすくしました。また、1階にあった低書架をOSLの手前に設置したので英語学習図書の展示などを計画中です。

＜その3＞

中の人の業務担当（閲覧チームとILLチームがあります）を一部シャッフルしました。職員みんながどの業務でも対応できるようにするために時々やります！

＜その1～その3＞をチェックしてみてください！

ところで、誰も聞いちゃいませんが、夏の終わりに久々にショートカットにしました。秋から冬にかけて、タートルネックのセーターを着たいなぁと、そろそろ秋物探しの旅に出ます（探さないで）。

それでは、また次回。

裏面　「先輩インタビュー」

特集

先輩にお話を聞きました

卒論・修論執筆インタビュー

お話を聞いた先輩：K.M さん
共生人間学専攻　博士2回生　（平成31年3月時点）

■現在の研究テーマを教えてください。

精神科治療（デイケア）の中にある「居場所型」と言われる施設が、精神障害をもつ人にとっていかなる積極的な意味をもつ場なのか、ということを研究しています。

■このテーマに決めたきっかけは？

学部3回生からデイケア併設の精神科の診療所でアルバイトをしていました。学部生の時は受付をしていたのですが、働く前にデイケアを見学させていただいた時に、「ここは不思議な場所だな」と思いました。

最初、その空間がどんな場所なのかわからなかったんです。平日の昼間なのに大人が卓球してたり、黙ってじっと座ってたり、談笑してたり、横になってる人がいたりして、自分の中で情報過多になってしまって。「なんだここ?だれが患者さんでだれがスタッフなの?」と混乱したことも覚えています。それまで精神障害の方たちって怖いイメージをもっていたけれど、とても普通に見えました。

これまで接してきた、いわゆる「大人」という人たちは、先生や親や仕事をしている人くらいで、「大人」のイメージはずっとかっちり仕事しているものだと思っていたので、そこにいる人たちとのギャップにも驚きました。

驚いたと同時に、「ここには何かがある気がする」とも感じました。驚きはしましたが、空間全体が平和な感じがして、それがとても「いいな」と思いました。ここはきっと人が落ち着いていられる場所なんだろうな、とも思いましたし、こういう場所が世の中に増えたらいいのにと考えるようになりました。

デイケアの仕事を本格的に始めたのは、修士1回生からでした。

■卒論で青年期の自己感について研究しようと思われたのは何故ですか？

卒論のテーマは、指導教員の専門分野であることも大きいのですが、私自身の経験もきっかけの一つです。

昔から隣人が何を考えているのかわからないことが怖いと感じていました。友人や親の言動の矛盾に対して、どうやってふるまうのが正解かわからなかったし、混乱もしました。昔は「まじめだね」とか「繊細だね」とか言われることもありました。ひとつひとつの事柄について、受け流すことが下手で内にためがちな性格で、人を観察することが好きなタイプだったと思います。

人がどのように自分自身のことをとらえているのか、どのような自己感で生きているのか知りたいと思っていたので、卒論のテーマがそういう形になりました。

「マイノリティの心が無視されるのを辛く感じた」

小さいころ、近所に昼間からふらふらしている、少し変わった大人の人がいて、いわゆる知的障害とたぶん精神障害ももっておられるかな、という方がいました。

周囲の大人は「目を合わせちゃだめよ」というように、警戒してかかわらないような態度で接していて、それがなんだか変だな、と。もやもやしました。確かに様子が変に見えるかもしれないけど、一方でその行動には彼なりの意味があるのではないか、と考えると、理不尽に避けられたり断罪されたりするのはとてもつらいなぁと、子供心ながらに思いました。マジョリティが正しいというような周囲の態度もだけど、マジョリティに迎合する自分自身にも怒りを感じていました。言いようのない嫌な感じ。「かなしい、つらい」「でも怖い」というような。

この「もやもや」を解決したいという気持ちで、今も精神障害というテーマにかかわり続けているんだと思います。指導教員から紹介された精神科のアルバイトを引き受けたことも、この「もやもや」があったからだと思います。

■どうして修士に進もうと思われたんですか？

両親は大学教員をしていて、「大学に行くなら院まで行きなさい」という感じで大学入学時から行くつもりはしていたので、自然な流れで院に行こうと考えていました。勉強を続けたいという気持ちもあったし、大学を卒業して企業で働くというイメージが持てなかったことも理由の一つです。

元々は、一般的な価値観で固められる形のまま、修士修了後は社会に出るはずだったんです。実は内定ももらっていたので・・・。でも、入社式の前に頭を打って入院したんです。部活の大事な試合も控えているのに、脳震盪（のうしんとう）みたいな状態が続いて、部活はもちろん、アルバイトも研究も停止した状態になって、病院へ行ったら入院となったんです。当初は「脳せき髄液漏洩症」という治療法もない症状で、これから一生、起きているときには脳震盪のような吐き気が伴うかもしれない、と言われて驚きました。

結局は後遺症も残らず済んだのですが、その時にいろいろ考えさせられました。今までは、固められた価値観の中で生活してきていて、自分としてはやりたいことがいろいろあるのに、全て後回しにしていました。「今は人生の準備期間。これをやれば後で報われる」と信じて我慢してやってきたのに、ひょんなことで思い描いていた人生コースは途絶えるんだな、と思いました。人は簡単に死ぬなぁと、災害や事故、事件で亡くなる人たちの中の誰も、この日に人生が終わると思っていなかっただろうなぁと、そんなことをリアルな実感として思いました。この経験は大きかったです。

明日とかいつかとか言って、いつ人生が終了するかも決められないんだから、人生はいつでも本番だなぁと思い知らされました。

また、病院のベッドで思ったのは、精神障害の人たちも、病気発症までは普通の人として生きてきて、でもある時病気になって、その障害と一生付き合っていくことになったんだよなっていうことで。一層彼らのことを身近に感じたというか、彼らは別に私たちと隔てられた存在じゃないよねやっぱり、と思ったりもしました。

いわゆる良い企業と言われるところで働くことと、今の自分の状況は180度違いますが、心情的に相容れないと感じる企業に行くより、人生いつも本番だから、と、博士へ進んで、精神障害の人たちの傍らで学びたいと思っての今の選択です。とはいえ、進学してから、「こんなに先が見えないんだ」と思うことも多くて、その場の気持ちで決めたことを後悔するときもあります。まあでも、いつ死ぬかわからない、と考えたら、最悪な間違いはしていないはず、と思っています。

■修論はどんなタイムスケジュールで執筆をされましたか？

修士1回生のときからアルバイトとしてフィールドに出ていたので、修士1回生の始めにぼんやりとテーマを決め、居場所の必要性について調べたいと考えました。

私の研究室では、研究方法の性質上、データが出てみて分析して初めて決まる感じでした。調査して出てきたデータで、何となくこう言えるかな、というような感じでテーマを決めていく感じなので。

修士2回生の8月にデイケア利用者へのインタビューを終了し、分析に入って、執筆して、という風に進みました。先行研究の乏しいテーマだったため、文献調査を後回しにしてしまって、修士2回生の冬（12月）になって、焦って資料集めをしていました。研究手続き的には文献は早めに集めるほうが良いと思います。論文提出は1月中旬でした。

■書き終わった感想は？

二度と読み直したくない（笑）。でも、分析はすごく楽しかったです。考察して、データを振り返って、その時のことを思い出して書いて、インタビューに応えてくれた人に思いを馳せるのは楽しかったです。でも最終的に何が言いたかったの？と聞かれたり、文献と自分の問題設定との距離が遠くて、どうつなげたらいいの？と思うとつらくなりました。

分析は濃密でも、文献についてはそこまで踏み込めていなかったです。文献と分析をどうつなげて書くかは最後まで解決できませんでした。 ページ数は70-80ページになったこともあってか、公聴会では熱意は認められました。そして「博論で頑張って」と（笑）。

まあでも、読み直したくないというのが率直な感想です。粗がありすぎて向き合う勇気は今もまだ出ません（笑）。

■修論を自己採点するなら何点くらいだと思いますか？

評価が難しいですね・・・プロセスの中で得たもの、インタビューを通して自分の考えが変わった、見えるものの幅や深さが変わったことについては120点。自分の将来選択にもつながったと思います。こうあるべきという考えから、それぞれの生き方に付き合っていく寛容性が大事だと思えるようになった。でも論文としての出来は・・・70点いかないかも。

■苦労したことはどんなことですか？

研究的な手続き（公共性の出し方、手法とか）が難しかったです。インタビューを受けてくれた人が言いたかったことが表現できているか、大事なことを捨象してしまう可能性を取り去ることも難しいし、本音を聞けているのかも不安だった。問い、文献、考察のそれぞれに距離があって、つなげるのも難しかったです。

■修論執筆に際して、図書館がどのように役立ちましたか？

Kuline論文検索をよく利用しました。離れたところからでも利用できるのが助かりました。返却期限お知らせメールがありがたかったです。11月くらいになって、今更講習会？という気持ちになるけど、こういったメールに講習会のこととかを入れると、救われる人がいるかも。

■自分の研究において、影響を与えた本や作品などはありますか？

大倉先生の本で、『育てる者への発達心理学 ： 関係発達論入門』[*1]です。行動の記録ではなく、人物像に焦点を当てた本で、「こういう研究方法もあるんだ」と興味をもつきっかけになりました。

あとは、『はんぶんあげてね』[*2]という絵本もやたらとおぼえている本の一つですね。大きいパンを人に半分ずつあげていって、パン自体は小さくなっていくけどパンを食べられる人は増えるっていう話。小さいころ読んだ時は、「めっちゃ損じゃない？」と思っていたのですが、今は「これが一番おいしい食べ方だよね」と実感しています。

■これからの夢を教えてください。

人それぞれ理解してもらえないことがあります。まずは、そういうことでも、「この人になら話してみようかな」と思ってもらえる人になりたい。世間的に間違っている価値観であっても、理解して、「それでもいいんだよ」と心から言ってあげられる人になりたい。まずはそういう人間に自分がなれたらというのと同時に、人の中にあるマイノリティ性がもっと居心地よく受け止めてもらえる場所を作っていくことに貢献していけたらいいですね。

■自分にとって研究とはなんだと思いますか？

知ったことを発信し、人とかかわるための手段で、世の中が少しでも良い方向に行くことに貢献するための活動でしょうか。自分を育てる営みだとも思っています。

*1『育てる者への発達心理学：関係発達論入門』https://m.kulib.kyoto-u.ac.jp/webopac/BB03803789　*2『はんぶんあげてね』https://ci.nii.ac.jp/ncid/BN10411266

本館開館日程表

00 9:00-20:00　00 10:00-15:00

00 休館　00 定例休館

10月

■夏季特別貸出の返却日
10日(木)

■電子ジャーナル・データベース講習会
■文献整理講習会
17日(木)、21日(月)、23日(水)
25日(金)、29日(火)

11月

■秋の展示企画(仮)

■京都大学11月祭
21日(木)-24日(日)

10

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

11

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

12　12月27日-1月5日:休館

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

環on 開室日程表

環on Library わおん

話せる図書館
「環on(わおん)」(人環棟1F)

開室:月～金　9:00-17:00
休室:土・日曜日・祝日
創立記念日(6/18)
冬季休業期間
卒業式の翌日～4/3, 8/11～8/20